

## 2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 24 日

所属	国際教養学部	職名	教授	氏名	渡辺 恭人
研究課題	学生の自主学修を支援するアダプティブラーニングの検討				
研究キーワード	自主学修 アダプティブラーニング e-learning	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	該当なし	該当なし	該当なし	

## 1. 研究成果の概要

本研究では、学修環境の ICT 化が進む一方で、履修者それぞれの状況に応じて、自主学修を支援するアダプティブラーニングの仕組みや環境をインターネット上で構築することで、学生が必要な学修を行い、学修結果を確認することで、学修効果を得ることを目指した。

筆者が所属する国際教養学部では、海外研修を必須としており、入学時、1 年次終了時、海外研修出発前、海外研修帰国後において、検定試験として「ケンブリッジ英検リングスキルテスト」を実施し受験させている。特に、2 年次開始時から海外研修出発前の同試験までは講義での外国語学習以外に自主学修を意識する期間である。2022 年度の 2 年生を対象に自己分析、目標設定させ学修方法を検討させ、出発前の試験結果で、分析評価を行った。平均では 4 技能ではリスニングとライティングが上回り、リーディングとスピーキングは下回った。目標値との比較では 4 技能全てで下回った。したがって、目標に見合う学修が行われなかったと考えられる。

ケンブリッジ英検リングスキルテストは、オンラインで行われる 4 技能の試験で、学修者の解答によって問題を変化させる。問題形式は公開されているが過去の問題は非公開であり、4 技能それぞれの実力が必要な試験といえる。試験の解答力や対応力と実力は完全に対応するとは限らないが、試験の解答力だけが向上しても実力が伴わなければ、海外研修などでの実践力は伴わない。とはいえ、実力を養成するには、学修者の 4 技能の状況を詳細に分析することは必要であり、そのための評価試験を行い、分析結果に基づいて、学修者ごとに 4 技能に必要な学修方法と反復練習の仕組みを提供することは必要である。学修結果の確認を行いながら対応力をも高める方法が適しているが、先行研究にあるように動機付けや継続性の促進については検討できなかった。計画では、TOEIC L&R を対象としていたが、本学部が 4 技能試験を使用しており、試験の種類の依らず、対応できる語学の実力養成が必要だと判断できた。今年度の研究では、自主学修を支援するアダプティブラーニングの仕組みや環境をインターネット上で構築までは到達できなかったが、学修者の状況に対応した汎用的な英語学修の支援する仕組みを引き続き検討し、自主学修の向上につなげたい。

## 2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

特にないが、検討した要件や実験ネットワークの設計などについて追加調査を重ねて、論叢、紀要への投稿を行いたい。

### 3. 主な経費

英語学修に関する書籍文献や、データの分析に関する文献、モバイルやVR等の学修環境のデジタル化に必要な機器等を消耗品にて入手し使用した。

### 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし

(本文は2ページ以内にまとめること)